

命の尊さ 生徒に伝える

高校で交通事故の遺族

たった一人の、一瞬の不注意が、

あまりにも大きな悲しみを生み出す

何げない日常が奇跡の連続だったんだと・・・

・・・思わされた

2019/05/28

石川被害者サポートセンターが主催する「命の大切さを学ぶ教室」が27日、石川県の高校で開かれた。

14年前、次女が交通事故に巻き込まれ亡くなった「あいち交通犯罪死ZEROの会」の女性代表（56）が涙ながらに被害者遺族の苦しみを語り、全校生徒に命の尊さを伝えた。

女性の次女は、12歳で中学1年だった2005年7月、歩道で信号待ちをしていた時、交差点内で信号無視をした車と出合い頭に衝突し制御できなくなった車にひかれて亡くなった。

女性は当時を振り返り、「たった一人の一瞬の不注意が、あまりにも大きな悲しみを生み出すことを考えもしなかった。

何げない日常が奇跡の連続だったんだと思わされた」と声を震わせながら話した。

その上で「自分の命を守ろうという意識を持つことが、他人の命も守る考えにつながる。

命の大切さを考えて、これから輝かしい未来を切り開いて行ってほしい」と呼び掛けた。

三年生の女子生徒（18）は、「当たり前の日常が、いつ当たり前じゃなくなるのかはわからないと気付かされた。

交通事故の加害者にも被害者にもならないように考えて生活したい」と話していた。

命の大切さを学ぶ教室は、規範意識の向上や被害者支援への関心を高めてもらうため、2007年から中高生を対象に各地で開催されている。